

本大会における規則の運用 反則行為(バイオレーション)への対応(申し合わせ事項)

反則例：スローイングラインを踏んで投球する。

スローイングラインを越えたところに体、ボールが触れた状態で投球する。

ランプや車いすの車輪がスローイングラインを越えて投球する。

ボールの状況を確認後、全員がスローイングボックスに戻る前に投球する。

投球する際、相手サイドがボールに触れている。 など

対応の基本：1球のペナルティーは実施しない。

再投球は行わない。

できるだけリトラクション（ボールの除去）は行わない。

申し合わせ事項を確認してもらった上での参加を促す。

対 応：投球に大きな影響がなかった投球動作・状況には、注意のみで進める。

理 由：リトラクションは行わない → プレーヤーの経験値（技能・知識）の違いへの配慮

再投球は行わない → 再投球によって起こりえる不公平（罰則が良い結果を招く）の未然防止

<ただし、リトラクションを行うケース>

- ・ 審判が投球指示を出す前に投球した時
- ・ ジャックよりカラーボールが先に投球された時
- ・ ジャックボールを投球した選手以外の選手が最初にカラーボールを投球した時
- ・ 一方のサイドが複数のボールを投球した時
- ・ 投球の結果に大きな影響があったと審判が判断した時
（スローイングボックスから大きく出る、使用できない道具を使う等）
- ・ 意図的な反則（相手サイドの投球時に声や音を出したり、同じ反則を繰り返す等）と審判が判断した時

※異議申し立てには、審判長（HR）または副審判長（AHR）と協議して最終判断を下す。